



ふれあい 放水路

2000
(平成12年)
第72号
3月



サケの稚魚放流

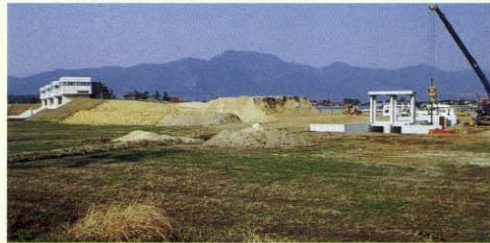
三月六日、神戸^{かんとせき}堰下流で、地元の神戸川小学校三年生の児童約百二十名と、神戸川漁協の方々によってサケの稚魚の放流が行われました。

この日放流した稚魚は約一万匹で、昨年の十一月に産卵のため神戸川に上ってきたサケを捕獲して、すぐに卵を搾り出し、人工的に受精させて育てられてきたものです。体長は三〜四センチの大きさになっていました。

産卵のため川へと上ってくるサケは、海にいるうちは捕ってもいいのですが、川へ入ってしまうと捕ってはいけないことになっています。神戸川漁協では、サケの産卵の手助けとして、島根県知事の許可を受け、昭和五十八年より妙見橋〜朝山地区間で鮭の捕獲を始め、稚魚の放流を行っています。

サケは生まれ育った川に帰ってくると言います。この日川に放たれた稚魚が元気に川に戻って来れるよう、これからも生態系に配慮した川づくりに努めていきます。

新内藤川排水機場



樋門工事に着手しました。

現在、工事はここまで進んでいます

平成11年度の放水路工事報告

平成11年度の放水路工事は皆様のご協力により、ほぼ予定どおり進み、補正予算による追加工事も順調に進んでいます。
今月は、現在までの工事の進捗状況を紹介します。

凡例

堤脚水路	
道路 (小段道路、工事用道路など)	
築堤・盛土	
構造物 (橋梁・ボックスカルバートなど)	
防災調整池	
掘削	

崎屋橋



橋桁、左岸側の取付道路工事が完了しました。

妙見橋



橋台1基、橋脚4基の施工に着手するとともに、右岸側の軟弱地盤対策工事にも着手しました。

古志橋



古志橋のシンボルとなる中央のアーチ状の橋桁、右岸側の橋桁、左岸側の橋台、橋脚、ボックスカルバートが完成し、橋中央から右岸側橋桁への床版工事、右岸側取付道路工事、左岸側の橋桁、取付道路、堤脚水路工事に着手しました。

開削部の掘削・盛土



半分地区～菅沢地区の右岸上部掘削(55号参照)、右岸堤防部の盛土工事が完了し、B谷～C谷の左岸上部の掘削工事、大津地区の市道付替工事に着手しました。

半分大橋



平成11年12月3日に開通式を行いました。また、馬木農道橋への取付道路工事に着手しました。

グリーンステップ



A谷では工事用道路が完成し、防災調整池を施工しています。
B谷では開削部の掘削工事などの残土処理を行っています。
C谷では市道の切替工事が完了し、防災調整池を施工しています。また工事用道路の工事に着手しました。

拡幅部下流部の堤防・護岸・樋門



下記のとおり各地区で工事が進んでいます。
完成：大島・境島・神門・下横地区の堤防工事、下長浜地区の高水護岸工事、向原～大島地区の5基の樋門工事
着手：大社地区の堤防・護岸工事と2基の樋門工事、向原地区の掘削・堤防工事と高水護岸工事、崎屋地区の堤防・高水護岸工事と1基の樋門工事、大島地区の高水護岸工事と1基の樋門工事

境橋



橋脚2基と右岸側の軟弱地盤対策工事に着手しました。

拡幅部上流部の堤防・樋門



古志地区、塩冶地区の堤防工事をはじめ、古志地区で2基の樋門工事に着手しました。

馬木大橋



橋脚2基の工事に着手しました。

朝山道路



清水前橋の改築工事が完了し、引き続き国道184号の付替工事を進めています。また、清水前橋の取付道路工事に着手しました。



0 500 1000 1500m

ふれあい放水路

通信

公民館からこんにちは

「塩冶公民館」

「斐伊川放水路事業」に期待

出雲市塩冶公民館長 成相 貞夫

太古の昔、この出雲地方は斐伊川、神戸川の土砂等の運搬作用により海から陸地になったものであり、塩冶の地名もこの水系から生まれたと考えられています。

いろいろな恩恵、特に水には格別のもがあります。生活用水、農業用水として、人間生活、自然の保護に役立つ反面、氾濫や洪水により災害をもたらした歴史もあると思います。

私たちが小学校時代はプールなどはなく、神戸川、斐伊川水系の間府川、高瀬川で泳いだり、水遊びや魚取りなどの生活体験、自然体験の場でありましたが、現在ではそのようなことは殆ど見られず、子供たちの遊びなど屋内でのものになっていったようです。

この度の斐伊川放水路事業により、神戸川も大きく変わると予想されますが、河川敷公園などにより水に親しむ憩いの場所となり、心の安らぎを求めてたくさんの人々が利用し、出雲市花火大会等が開催され、出雲市のリフレッシュセンターになることを願いたいものです。



▲ 塩冶公民館スタッフのみなさん

工事情報コーナー

TRD工法について

「ソイルセメント地中連続壁工法」

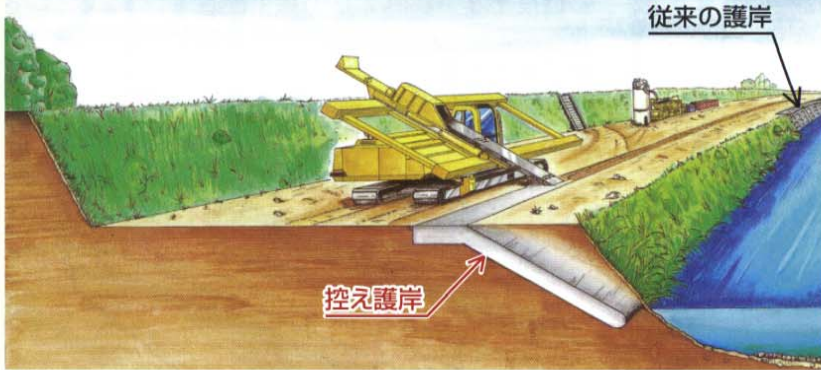
近年、より自然に近い護岸の形成を目指し、多自然型護岸工法の一つとしてTRD工法が研究されています。現在、神門地区で試験施工を実施しています。

この工法は、従来のような河岸表面にコンクリート張りを施す方法ではなく、河岸に沿って地中に傾斜壁(控え護岸)を造成するものです。

この工法には、①自然の河岸に手を加えることなく施工できる。②河川との締切等の仮設が少なくて済む。

③従来の多自然型工法に比べて施工費が安い。等の長所があります。上に傾斜壁をイメージ図で紹介いたします。

傾斜壁(控え護岸)のイメージ図



斐伊川放水路の工事実施状況



(平成12年2月以降の発注工事)

工事名	業者名	工期
斐伊川放水路 崎屋排水樋門工事	大福工業(株)	自 H12年2月10日 至 H13年1月31日
斐伊川放水路 C谷築堤工事	(株)中筋組	自 H12年2月10日 至 H12年9月30日

建設省中国地方建設局
出雲工事事務所

〒693-0023 出雲市塩冶有原町5丁目1番地
☎(0853)21-1850

メールアドレス E-mail: izumo@cg.moc.go.jp
ホームページ http://www.cg.moc.go.jp/izumo/

本誌に関するご意見やご要望などがございましたらお寄せください。

問い合わせ先: ふれあい放水路担当
放水路工事室 事業対策官